



銅版画家・大井戸百合子は、自らの幼い頃の記憶を重ねて、小樽の手宮市場に取材した北の女たちの連作を生み出した。懸命に働く女たちの、たくましく強い姿は、百合子の銅版画における代表作となった。

長くモノクロの表現を追い続けてきたことの反動から、鮮やかな色彩を求めたいと、50歳(1995年)から赤道直下の国々への

スケッチ旅行を思い立つ。その後マレーシアに住んでいた友人のつてを得て、クアラルンプールに住むことになる。マレーシアは日系企業も多く、クアラルンプールはジャングルと高層ビルの混在するイスラム教の美しい町で、住民はインドネシア系のマレー人、中国系の華僑、インド系、アラビア系、白人、アフリカ系と多民族の人々が、異なる生活様式で暮らしている。

「マングローブの家」は、現地の友人の案内で、田舎を旅して歩いたときに見た、水上生活の家族を描いた作品である。

北海道と反対の自然の中での日々の暮らしを見ることは、興味が尽きなく、マレーシア滞在は10年に及んだ。滞在中マハティール前首相を表敬訪問し、マレーシア(1999年)、シンガポール(2002年)で「北と南の暮らし」をテーマに個展を開催する。

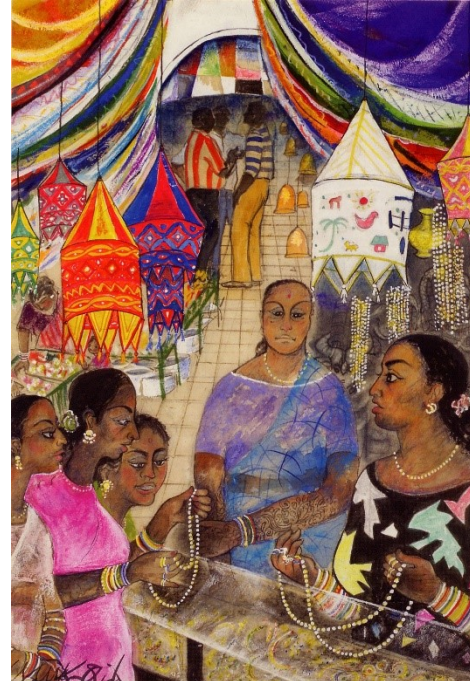
1997年から月1回、北海道新聞に「マレーシアの街角」を2年6カ月連載する。

本展は、令和3年度に開催した大井戸百合子の「北の市場と女たち」の続編となる展覧会です。

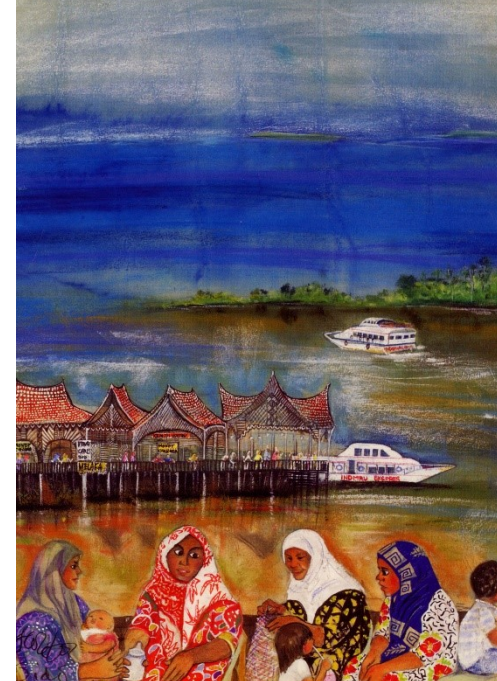
前回の展示が、モノクロの鋭い線描で表現した銅版画であったのに対し、本展は、画家が直接筆やパステルで描いたドローイングで、鮮やかな色彩が特徴となっています。厳しい本格的な冬に向かう時期、たくましく生きる市井の人々への百合子の温かいまなざしと、南国の魅力を感じ取っていただければ幸いです。



《マハティール首相表敬訪問》



《インド人街 盲人の買い物》



《マラッカ海峡を渡る人》



《ユーラシア大陸最南端》



《オーキッドガーデン》

■大井戸百合子プロフィール

1966年北海道教育大学札幌分校卒業。1974年春陽会初出品。北星学園余市高校、小樽水産高校美術非常勤講師。1978年春陽会新人賞受賞。1979年文化庁第13回現代選抜展。1982年春陽会会員、全道展会員。1986年絵本「ぼくとアルベス兄ちゃん」厚生省児童福祉文化奨励賞受賞。1985年カナダ国立図書館(オタワ市)で個展開催。クアラルンプール、シンガポールなど海外各地で個展開催。【出版】「チロをさがして」(1988・福武書店)。銅版画集「北の市場」(1992)。「森のこもりうた」(1994・福音館書店)。「ふゆのいちばへおかいもの」(1996・福音館書店)。「オロロンとぶ島」(2009・スモークハウス)。「ふゆのおかわ」(2010・スモークハウス)。「大井戸ざくら」(2013・スモークハウス)刊行。「ふゆのいちばへおかいもの」再翻(2015・福音館書店)



市立小樽美術館協力会

〒047-0031 小樽市内色内1丁目9番5号 電話 0134-34-0035 fax 0134-32-2388

《関連事業》 事前予約 tel 0134-34-0035

① 大井戸百合子 銅版画ワークショップ

大井戸のマレーシアを題材とした小さな原版を用い、プレス機による版画の刷りを体験します。(材料費300円)

日時：令和4年12月10日 10:00~14:00 定員15名

② 宮下航英 民謡ミニコンサート

「北の市場と女たち」のライドショーとともに、日本海にまつわる民謡をお楽しみください。(無料)

日時：令和4年12月17日 14:00~14:30 定員30名

出演：宮下航英(北海道民謡連盟 小樽後志民謡連合会会長)



本展では、「北の市場と女たち」のシリーズを、ライドショーでご紹介いたします。